

■ 概況

7/29~8/4のNYMEX・WTI先物市場は、68.15~73.95ドルの範囲で推移した。

8月5日は、オマーン沖でのタンカー攻撃を契機とする米英とイランの対立など情勢の緊迫を背景に、4営業日ぶりに反発した。9月限の終値は前日比0.94ドル高の69.09ドル。

週末6日は、米中の行動制限強化など変異種による感染再拡大への懸念が高まり、石油需要の先行き懸念から反落した。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比2基増の387基。9月限の終値は前日比0.81ドル安の68.28ドル。

週明け9日は、中国を中心とする感染再拡大への警戒感、中国の7月の原油輸入の減少発表などを背景に続落した。9月限の終値は前日比1.80ドル安の66.48ドル。

10日は、米上院での約1兆ドルのインフラ投資法案通過、米エネルギー情報局の楽観的需要見通しなどによって、大幅反発した。9月限の終値は前日比1.81ドル高の68.29ドル。

11日は、朝方、米バイデン政権がOPECプラスに一層の減産緩和を要請したとの発表で、売られたものの、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計で、原油在庫が取り崩され、買い戻され続伸した。9月限の終値は前日比0.96ドル高の69.25ドル。

12日は、国際エネルギー機関(IEA)月報が、7月に入り感染再拡大で需要が減少、2021年下期の需要見通しを下方修正したため、小幅反落した。他方、OPEC月報は下期需要見通しを据え置き、下値を支える形となった。9月限の終値は前日比0.16ドル安の69.09ドル。

週末13日は、昨日のIEA月報の需要の下方修正で続落した。なお、米国内の稼働中石油掘削装置は前週末比10基増の397基。9月限の終値は前日比0.65ドル安の68.44ドル。

週明け16日は、デルタ株の感染再拡大を背景に軟調な中国の経済指標が相次ぎ、経済減速への警戒感から、3営業日続落した。タリバンによるアフガン政権掌握や米軍のアフガ

ン撤退は、あまり影響はなかった。9月限の終値は前日比1.15ドル安の67.29ドル。

17日は、変異種の感染再拡大や米国小売統計の軟調報告を背景に、先行き石油需要への警戒感から、4営業日続落した。9月限の終値は前日比0.70ドル安の66.59ドル。

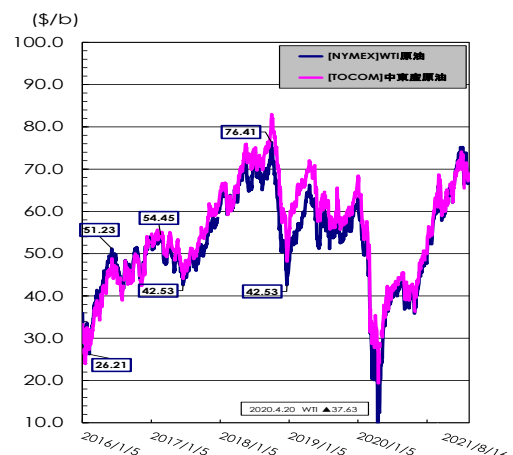
18日は、感染再拡大による経済活動減速への警戒感やユーロ安・ドル高による原油先物の割高感によって、5営業日続落した。9月限の終値は前日比1.13ドル安の65.46ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(9月渡し)は、7月29日~8月4日の間70.90~73.90ドルの範囲で推移した。8月5日69.00ドル、6日70.30ドル、10日68.50ドル、11日69.60ドル、12日70.10ドル、13日69.80ドル、16日68.70ドル、17日68.70ドル、18日68.70ドルで推移した。

為替は7月29日~8月4日の間109.07~109.73円の範囲で推移した。8月5日109.66円、6日109.89円、10日110.36円、11日110.69円、12日110.37円、13日110.46円、16日109.51円、17日109.23円、18日109.55円で推移した。

そのような中で、8月10日時点の小売価格は、ガソリンが前週(8月2日)比0.3円の値上がり、軽油も同0.2円の値上がり、灯油は同2円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、軽油も2週ぶりの値上がり、灯油も2週ぶりの値上がりだった。この週(8月第2週)の原油コストは大きく値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比2.0円の引き下げとなった模様。また、8月16日時点の小売価格は、ガソリンが前週(8月10日)比0.1円の値上がり、軽油も同0.1円の値上がり、灯油は同4円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。この週(8月第3週)の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比0.5円の引き下げとなった模様。

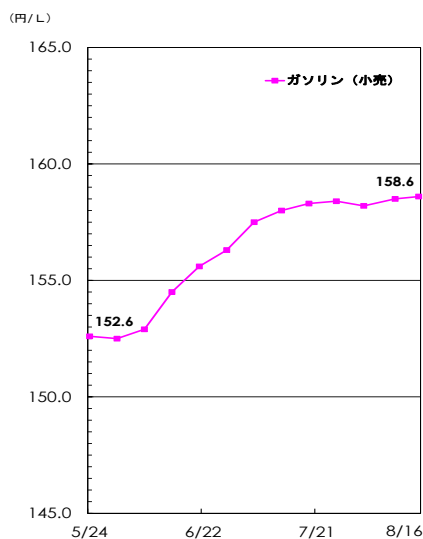
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/8 ~ 8/14	2,876 ▲24	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	74.7 ▲0.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/14	9,992 ▼-224	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	8/16	67.43 ▲0.33	▲ 23.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/16	67.29 ▲0.81	▲ 24.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月中旬	73.18 ▲5.26	▲ 40.40
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	50,998 ▲3,771	▲ 28,888
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.79 ▼-0.26	▼ -3.57
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/16	110.51 ▲0.85	▼ -2.96



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/8 ~ 8/14	938 ▲ 30	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	960 ▲ 18	▲ -	
	輸出	"	32 ▼ -32	▲ -	
	在庫	8/14	1,878 ▼ -54	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/10 ~ 8/16	66.2 ▼ -1.1	▲ 22.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/10 ~ 8/16	64.9 ▼ -1.7	▲ 24.3
		(TOCOM/中部)	8/16	64.0 ▼ -1.5	▲ 22.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/16	158.6 ▲ 0.1	▲ 23.1	

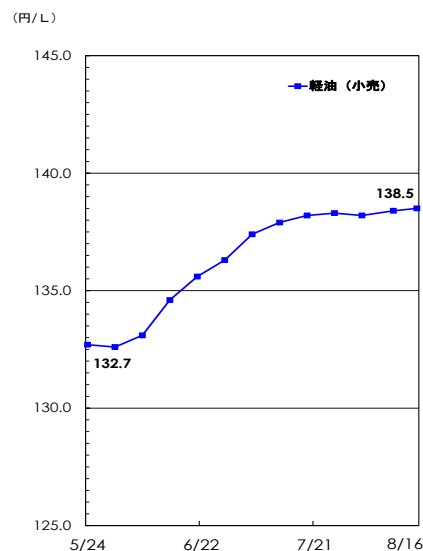
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

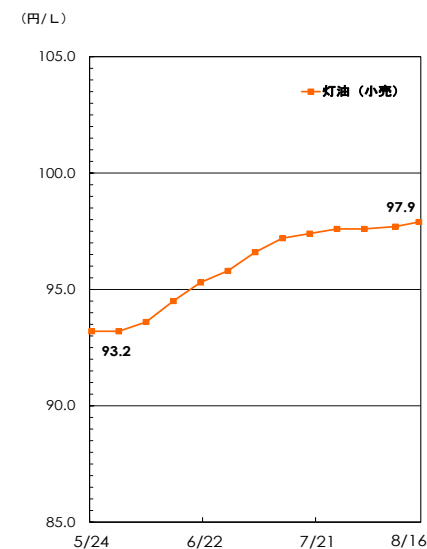
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/8 ~ 8/14	682 ▼ -84	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	430 ▼ -240	▲ -	
	輸出	"	219 ▲ 172	▲ -	
	在庫	8/14	1,878 ▲ 33	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/10 ~ 8/16	67.5 ▼ -1.1	▲ 20.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/10 ~ 8/16	66.7 ▼ -0.6	▲ 18.3
		(TOCOM/中部)	8/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/16	138.5 ▲ 0.1	▲ 22.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/8 ~ 8/14	107 ▲ 8	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	72 ▼ -29	▲ -	
	輸出	"	22 ▲ 22	▲ -	
	在庫	8/14	2,012 ▲ 13	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/10 ~ 8/16	66.9 ▼ -1.0	▲ 20.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/10 ~ 8/16	61.7 ▲ 0.2	▲ 18.2
		(TOCOM/中部)	8/16	64.0 ▲ 0.7	▲ 19.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/16	97.9 ▲ 0.2	▲ 16.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

8月11日のNYMEXのWTI先物原油は、米国需要の底堅さから続伸した。朝方、バイデン政権のOPECプラスに対する増産要請の発言で売られたものの、即応を要するものではないとの補足説明で買い戻された。また、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計で、原油在庫は市場予想を下回ったものの前週末比40万バレル減と、米国の石油需要の底堅さを意識された。9月限の終値は前日比0.96ドル高の69.25ドル、10月限の終値は0.96ドル高の69.02ドル。

また、8月18日のNYMEXのWTI先物原油は5日続落、5月21日以来約3か月ぶりの安値となった。中国や米国を中心とする新型コロナ変異種の感染拡大による経済活動減速への

警戒感や外為市場でのユーロ安・ドル高による原油先物の割高感が、値下がり要因となった。9月限の終値は前日比1.13ドル安の65.46ドル、10月限の終値は1.13ドル安の65.21ドル。

EIAによると、8月9日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.3セント値上がりの1ガロン3.172ドル(92.8円/ℓ)、ディーゼルは同0.3セント値下がりの3.364ドル(98.4円/ℓ)となった。また、8月16日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.2セント値上がりの1ガロン3.174ドル(92.5円/ℓ)、ディーゼルは同0.8セント値下がりの3.356ドル(97.9円/ℓ)となった。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは2週連続の値下がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年8月8日～8月14日に休止したトッパー能力は17.1万バレル/日で、前週に対して4.9万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は287.6万klと、前週に比べ2.4万kl増加。前年に対しては6.2万klの増加。トッパー稼働率は74.7%と前週に対して0.6ポイントの増加、前年に対しては2.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.4%増、ジェット/19.1%増、灯油/7.8%増、軽油/11.0%減、A重油/33.1%減、C重油/16.8%減。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は21.9万kl(前週比17.2万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリンが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、灯油、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は96.0万kl(対前週1.9%増)と2週連続で増加した。ジェット3.8万kl(対前週31.8%減)、灯油7.2万kl(対前週28.7%減)、軽油43.0万kl(対前週35.8%減)、A重油9.3万kl(対前週52.4%

減)、C重油12.6万kl(対前週48.3%減)。

(単位：千kl)

	今週 (8/8 ~ 8/14)	前週 (8/1 ~ 8/7)	前週比	
ガソリン	960	942	▲ 18	(2%)
ジェット燃料	38	56	▼ -18	(-32%)
灯油	72	101	▼ -29	(-29%)
軽油	430	670	▼ -240	(-36%)
A重油	93	195	▼ -102	(-52%)
C重油	126	244	▼ -118	(-48%)
合計	1,719	2,208	▼ -489	(-22%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月14日時点の在庫は、ガソリンが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては灯油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは187.8万kl、前週差5.4万kl減。前年に対しては8.4万kl多い。

灯油は201.2万kl、前週差1.3万kl増。前年に対しては18.6万kl少ない。

軽油は187.8万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては4.3万kl多い。

A重油は74.6万kl、前週差3.5万kl増。前年に対しては1.8万kl多い。

C重油は194.0万kl、前週差7.0万kl増。前年に対しては10.2万kl多い。

(単位：千kl)

	今週 (8/14)	前週 (8/7)	前週比	
ガソリン	1,878	1,932	▼ -54	(-3%)
ジェット燃料	802	734	▲ 68	(9%)
灯油	2,012	1,999	▲ 13	(1%)
軽油	1,878	1,845	▲ 33	(2%)
A重油	746	711	▲ 35	(5%)
C重油	1,940	1,870	▲ 70	(4%)
合計	9,256	9,091	▲ 165	(1.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月3日～9日の指標原油価格は前週(7月27日～8月2日)比で大きく値下がりし、為替レートもわずかに円高で、円建ての原油コストは大きく値下がりしたと見られる。次週(8/12～8/18)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比2.0円の値下げとなった模様。

また、8月10日～16日の指標原油価格は前週(8月3日～9日)比で値下がりし、為替レートの円安がこれをわずかに相殺したが、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。次週(8/19～8/25)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比0.5円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月3日～9日の製品スポット市況は、7月27日～8月2日平均と比べ、先物の全取引が値下がり、海上の灯油が横ばいだったが、その他は値上がりした。また、8月10日～16日の製品スポット市況は、8月3日～9日平均と比べ、先物の灯油が値上がりしたが、その他は値下がりした。

後大きく値下がり。

前週(8/3～9)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前々週比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.5円の値上がり。また、直近週(8/10～16)の陸上スポット価格平均値は、前週比で、ガソリンは1.1円の値下がり、灯油は1.0円の値下がり、軽油は1.1円の値下がりだった。同期間(8/3～16)において、ガソリンは119～121円台で値下がり、灯油は66～68円台で値下がり、軽油は67～68円台で値下がり。

先物価格の平均は、前々週比で、ガソリンは2.3円の値下がり、灯油は0.5円の値下がり、軽油は1.4円の値下がり。また、先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.7円の値下がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.6円の値下がり。先物価格は、同期間(8/3～16)に、ガソリン117～121円台で大きく値下がり、灯油61円台で値下がり後値上がり、軽油66～68円台で大きく値下がりして推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (8/10～8/16)	前週 (8/3～8/9)	前週比
スポット価格	レギュラー	66.2	67.3	▼ -1.1
	灯油	66.9	67.9	▼ -1.0
	軽油	67.5	68.6	▼ -1.1
(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (8/10～8/16)	前週 (8/3～8/9)	前週比
先物価格	レギュラー	64.9	66.6	▼ -1.7
	灯油	61.7	61.5	▲ 0.2
	軽油	66.7	67.3	▼ -0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/10～8/16実績値) (単位: 円/ℓ)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.1	▼ -1.7	▼ -1.4
灯油	▼ -1.0	▲ 0.2	▼ -0.4
軽油	▼ -1.1	▼ -0.6	▼ -0.9
A重油	▼ -1.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週(8/3～9)に、前々週比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油は0.6円の値上がり。また、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(8/10～16)に、前週比で、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油は0.8円の値下がり、軽油は0.6円の値下がり。海上スポット価格は、同期間(8/3～16)に、ガソリンは121～122円台で値上がり後値下がり、灯油は63～65円台で出入り後値下がり、軽油は68～70円台で値上がり

4 国内/製品小売価格

8月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(8月2日)比0.3円高の158.5円、軽油も同0.2円高の138.4円、灯油は18ℓベースで同2円高の1,758円(1ℓベースでは同0.1円高の97.7円)。ガソリンは2週ぶりの値上がり、軽油も2週ぶりの値上がり、灯油も2週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは33都道府県、横ばいは2県、値下がり12府県だった。全国最安値は153.1円の埼玉県(同0.2円高)、その次は、153.5円の徳島県(同1.1円高)と宮城県(同0.1円高)、他方、最高値は168.2円の長崎県(同0.1円安)だった。最も値上がりしたのは同1.8円高の富山県(160.9円)で、横ばいは長野県と高知県、最も値下がりしたのは同1.1円安の沖縄県(163.9円)だった。今週(8月3日～8月9日)は、指標原油価格は大きく値下がりし、為替レートもわずかに円高で、円建ての原油コストは大きく値下がりしたと見られる。次週(8月12日～8月18日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比2.0円の値下げとなった模様。

また、8月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(8月10日)比0.1円高の158.6円、軽油も同0.1円高の138.5円、灯油は18ℓベースで同4円高の1,762円(1ℓベースでは同0.2円高の97.9円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは23都府県、横ばいは4県、値下がり20道府県だった。全国最安値は152.6円の埼玉県(同0.5円安)、その次は、153.4円の宮城県(同0.1円安)、他方、最高値は168.3円の長崎県(同0.1円高)だった。最も値上がりしたのは同0.8円高の東京都(162.3円)で、横ばいは福岡県・鳥取県・三重県・長野県の4県、最も値下がりしたのは同1.0円安の富山県(159.9円)だった。今週(8月10日～8月16日)は、指標原油価格は値下がりし、為替レートの円安がこれをわずかに相殺したが、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。次週(8月19日～8月25日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比0.5円の値下げとなった模様。次回調査時(8月23日)のガソリンの小売価格は小幅な値下がり予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)			
[週動向]		今週 (8/16)	前週 (8/10)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	158.6	158.5	▲ 0.1	08/8/4 185.1
	灯油	97.9	97.7	▲ 0.2	08/8/11 132.1
	軽油	138.5	138.4	▲ 0.1	08/8/4 167.4

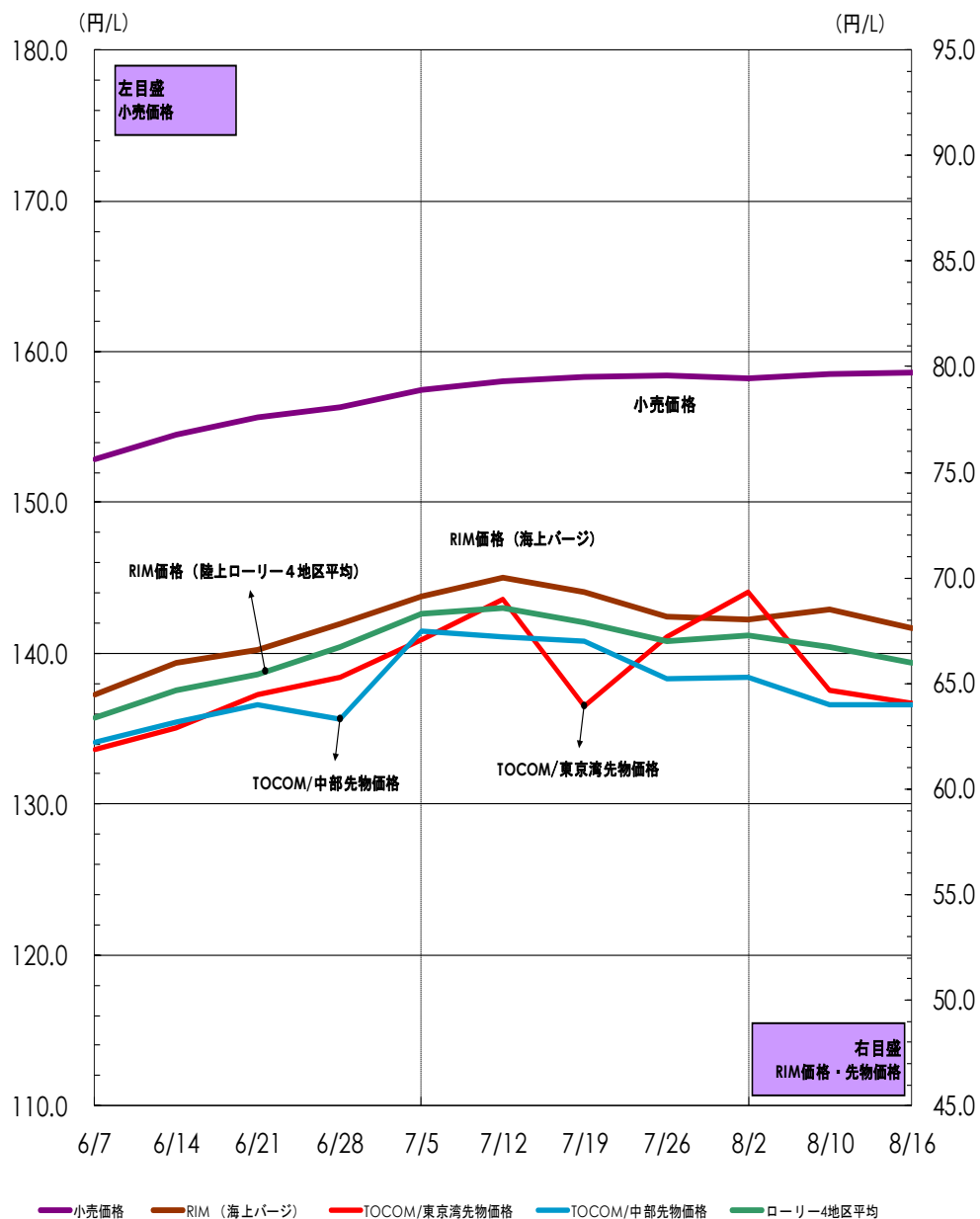
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/6/7 ~ 2021/8/16)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2021第20号) の公表は、8/27 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在) は、8月26日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。